

## 主 題：私は罪人として生まれた2

## 聖書箇所：ローマ人への手紙 3章13-20節

「あなたは罪人である」と主なる神はこのように言われています。それに対してだれも反論できないのは、私たち自身がそのことに多少なりとも気付いているからです。私たちのすべて、私たちの心、考え、思い、その行動もご存じである神、その神に対していったいだれが反論できるのかです。私たちのことを知らない方ならともかく、私たちのすべてのことを知っておられる神の前に、「私は聖いです。あなたの言われていることは間違っています」と言えるような者がいるのでしょうか？神はすべてのことを知った上で、私たちに対して「あなたには罪がある、あなたは罪人だ」と宣告されるのです。ですから、私たちは生まれながらに神に逆らう罪人であり、ゆえに、主なる神のご厚意をいただく資格のまったくない者、主なる神から愛され、慈しまれる価値のまったくない者です。生まれながらに神に逆らい続けているのですから、生まれながらに神の忌み嫌うことを行ない、神が望むことを行なわない私たちだからです。しかも、私たちはどんなに努力しようと自分を変えることも、自分自身を聖くすることもできない、どうしようもない存在なのです。パウロがこのみことばを通して私たちにしよとしてしていることは、私たちには本当の姿を見せようとする事です。主なる神の前に、どのように私たちが映っているのか、パウロは二つの点を上げて、いかに私たちが罪に汚れた者であるかを明らかにしようとしています。

## ☆神の目に人間はどのように映っているか？

## 1. 性質において汚れた者 10-12節 (8/10の礼拝メッセージ)

すでに、私たちが見て来たように、この10節から「私たちは性質において汚れた者である」ということを見て来ました。パウロは10-18節で六つの旧約聖書のみことばを引用しながらそのことを説明しています。そのみことば、詩篇とイザヤ書からの引用ですが、それを見ると、この新約聖書でパウロが使っていることばとまったく同じではありません。それはパウロ自身がその詩篇、イザヤ書のみことばを要約しているからです。でも、旧約聖書のみことばを引用しながらパウロは時代がどう違おうと、住んでいる場所がどう違おうと、人種がどう違おうと私たち人間は本質的に汚れた者である、罪人であるということを明らかにするのです。私たちは性質において汚れていると言います。

- 1) 汚れた者：神の前に正しい人は一人もいないと言います。聖い神の前に立つことができる聖い者は一人もいないと。
- 2) 霊的に盲目な者：悟りのある人はいない、霊的にすべての人間は盲目であると言います。神について知ることも、神が教える真理を理解することも私たちはできない者です。ですから、生まれながらに私たちは神のことばを聞いても聞いても理解できないのです。
- 3) 傲慢な者：神を求める人はいないと言います。神のことよりも自分のことを優先して、神に逆らう選択を堂々と行なっていると言います。
- 4) 真理から外れた者：すべての人が迷い出ている、真理に背を向けて間違った道に歩んでいると言います。
- 5) 神にとって無益な者：悪くなったミルクと同じようにまったく役に立たない者です。
- 6) 悪に満ちた者：善を行なう人はいない、神の前に正しいこと、神の前に善を行なうのではなく、その行ないは悪に満ち溢れていると言います。

すべての人が本質的にその性質において汚れ切った者であると言います。でも、前回見たように、そのような私たちに対して、神が歩み寄ってくださった、神が私たちを捜し求めてくださったのです。「**人の子は、失われた人を捜して救うために来たのです。**」(ルカ19:10)。私たちはこの私たちの汚れを見たとき驚くかもしれません。でもよく見ると、ここに記されている罪人はまさに自分自身の姿です。私たちがどれ程汚れているのかはみことばが明らかにしてくれたのです。そのことに私たちが気付けば、私たちは間違いなく、このような罪人の私が神のご厚意をいただくことはあり得ないという、その結論に到達するのです。神の救いをいただく資格のない者だということに気付くのです。驚くべきことは、そのような私たちに神ご自身が歩み寄ってくださって、私たちのことを私たち以上に知っておられる神がそのように汚れた者に自ら歩み寄ってくださって、その救いの御手を差し伸べてくださったのです。ここに驚くべき恵みがあるのです。ここにこの聖書が教えるすばらしい神の慈しみが現わされているのです。本質的に、そのように罪に汚れた者であるということを教えた後、13-18節には、性質だけでなく私たちの言動も汚れ切っていると言います。

## 2. 言動において汚れた者 13-18節

## 1) ことばによる罪 13-14節

13-14節「彼らののは、開いた墓であり、彼らはその舌で欺く。」「彼らのくちびるの下には、まむしの毒があり、」:14「彼らの口は、のろいと苦さで満ちている。」、ことばによる罪であることは明らかです。なぜなら、「のど」があり「舌」があり「くちびる」があり、そして、「口」が出ているからです。私たちのことばに関するその汚れをパウロは教えようとするのです。ヤコブがヤコブ書3章のほとんどを費やして私たちに教えたことがありました。それは「ことばに気をつけなさい」ということでした。「**賛美とのろいと同じ口から出て来るのです。私の兄弟たち。このようなことは、あつてはなりません。**」(ヤコブ3:10)とあります。私たちは同じ口で神を称え、同じ口で人をのろう、悪いことばを口から発する、そのようなことがあつてはならないと言います。ペテロは私たちがしっかり覚えなければいけないことをこのように言っています。Iペテロ3:10「**いのちを愛し、幸いな日々を過ごしたいと思う者は、**」、神の祝福を十分にいただきながら生きようと思うなら、「**舌を押えて悪を言わず、くちびるを閉ざして偽りを語らず、**」と。これも詩篇のみことばの引用ですが、ことばに気をつけなさいと言っています。確かに、私たちはことばでどれ程罪を犯してきたことか、そのことをよく理解しているつもりの方です。おもしろいことは、私たちはそのように罪を犯すときは必ず弁解をします。だって、～がこのように言ったから、～がこんなことをしたから、だから…と。しかし、私たちがもう気付いていることは、私たちのこの口はどうしようもないほど悪に満ちたものです。言わなくてもいいことがすぐに口から出て来る、言っていることが正しくても、言い方が間違っていたりする、そのようなことは私たちが日々経験しています。パウロが私たちに言うことを見てください。

### (1) 彼らののは、開いた墓 13節

「**彼らののは、開いた墓であり**」、詩篇5:9の引用です。「**彼らの口には真実がなく、その心には破滅があるのです。彼らののは、開いた墓で、彼らはその舌でへつらいを言うのです。**」、「**開いた**」という動詞は、もうすでに開かれている、今も開いている、墓の扉が開いたままであるという意味です。想像していただくと、墓の扉が開いていると周りの人たちにどのような影響があるのか、そこから腐敗した悪臭が漂ってきます。死体に群がる虫が見えます。彼はそのような状況がずっと継続していることを言います。なぜ、彼がここで「口」と言わずに「のど」と言ったのでしょうか？実際に声が出てくるのは「のど」です。声帯から音が出て来ます。彼はその部分がもう汚れてしまっていると言っているのです。私たちがどれ程ことばにおいて罪に汚染されてしまっているのか、彼はそのことを徹底的に教えるために私たちの声が出てくる部分も「**開いた墓**」のようであり、そこからは悪臭が漂っていると言います。

### (2) その舌で欺く 13節

「**その舌で欺く。**」とパウロは言いました。そこには虚偽とごまかしがあるとあります。それが私たちの特徴なのです。「**欺く**」ということばはご存じのように「嘘をつくこと、人をだますこと」です。しかも、それを継続しているためにここでは未完形という自制を使っています。パウロは自分自身でもよく分かっているのです。私たちはそのようなことを口にしないでおこうと思っても、そのようにすぐに虚偽とごまかしが出て来る、それが私たちの口の特徴である、それが私たち罪人の特徴であると言います。

### (3) くちびるの下には、まむしの毒があり 13節

「**彼らのくちびるの下には、まむしの毒があり、**」、詩篇140:3の引用です。「**蛇のように、その舌を鋭くし、そのくちびるの下には、まむしの毒があります。**」、毒蛇の恐ろしいものはその毒です。蛇の中にその毒を作り出す袋があるのです。毒が噛んだ人に危害を及ぼすように、私たちのことばは残念ながら、人に危害を及ぼすと言っているのです。たとえば、間違った教えによって人々を間違った方向へと導いて行ってしまふ、そのような危険性があります。そのようなことは頻繁に行なわれています。ですから、私たちは神のおことばだけに立つことが必要です。

### (4) 口は、のろいと苦さで満ちている 14節

「**彼らの口は、のろいと苦さで満ちている。**」と言います。詩篇10:7の引用です。「**彼の口は、のろいと欺きとしいたげに満ち、彼の舌の裏には害毒と悪意がある。**」。激しいのろいです。人の不幸を望んでいるのです。また、それを望むだけでなく口に出してその人への悪評を並べ立てるのです。悪口を言うのです。中傷、誹謗するのです。人の幸せを喜ばないのです。その思いが心に留まっているだけでなく、それが口から出て来るのです。「**苦さで満ちている**」とあります。苦々しい、怒りがある、不愉快でおもしろくないというのです。私たち人間の心は自分が幸せにならないと、その原因と思える人々に対して怒りを持ち、後には神に対して怒りをもってしまふ愚かな者です。私たちの心がそのように「**のろいと苦さで満ちている**」なら、つまり、自分よりも人が幸せであるなら、どうしてもそれを喜ばない私たち、人の不幸を望むために、このようなものが心から外側に出て来るのです。

私たちのことばの特徴は、人々に対する悪口であつたり、心の中に不愉快さがあるゆえにそれが形と

なって出て来るのです。このように私たちの口は汚れていると言います。ですから、パウロが繰り返して、パウロだけではありません、みことばが私たちに何を口から出すのか、何を語るのか、それに注意しなさいと言っているのはそういうことです。パウロはエペソ4：29で「**悪いことばを、いっさい口から出してはいけません。**」と言いました。なぜでしょう？悪いことばは決して神の栄光を現わすものにならないからです。どんなにあなたの中に正当な理由があったとしても、悪いことば絶対に神の栄光を現わしません。先ほども言ったように、正しいことを間違った言い方で語ることも同じです。私たちの口から出て来ることばは、どんなことばであっても神が喜んでくださるものでなければならないと言います。しかも、パウロは続けてこのように言います。「**ただ、必要なとき、人の徳を養うのに役立つことばを話し、聞く人に恵みを与えなさい。**」と。兄弟姉妹たちの信仰が成長するようなことを語りなさいと言います。聞いている人が「神さま、感謝します」と神を崇めるような、そのように導くことを語りなさいと言います。私たちがどのような言い訳をしようと神は私たちの心をご存じです。私たちが悪口を言う理由は私たちの心に悪い原因があるからです。心が悪いからことばが悪いのです。だから、私たちは自分の心を吟味しなければいけません。そのために私たちは常に神に満たしていただかなければいけません。ですから、聖霊に満たされ続けなさいと言うのです。私たちが正しいことを語り続けて行こうとするなら、神の助けが要るのです。私たちは自らの心をしっかり守らなければいけません。そうでなければ私たちは間違ったことばを口から出してしまふ危険性があるのです。そして、私たちはみな、このことばで罪を犯してきた者たちです。私たちが考えなければいけないことは、今日、私たちがこの場を出て行くとき、これまでと同じようにそのような罪を平気で犯し続けて行くのか、それとも、もうそのようなことは止めて神の助けによって、パウロが教えてくれたように、「**人の徳を養うのに役立つことばを話し、聞く人に恵みを与え**」るようなことばを話す者としてここを出て行こうと、そのような決心をするのか、それを決めるのはあなたです。残った人生をどのように生きていきますか？神に喜ばれる生き方をもって栄光を現わして行くのか、好き勝手に生きて神の栄光を汚して行くのか、どちらかです。

クリスチャンである皆さん、ことばに気を付けなさいと言います。パウロはここで私たちがそのことばにおいてどれ程罪深い者であるかを明らかにしました。今このように見てきて、みな、自分の姿をここに見たはずで。少なくとも、私たちはそれを何度も繰り返してきた者です。願わくは、今そのようなことをしているクリスチャンがここにいないことを期待しますが、このようなことは気を付けていなければ私たちはすぐにこの罪に陥ってしまいます。パウロはその罪深さを私たちにしっかり悟らせようとするのです。

## 2) 行ないによる罪 15-17節

15-17節「**彼らの足は血を流すのに速く、：16 彼らの道には破壊と悲慘がある。：17 また、彼らは平和の道を知らない。**」、イザヤ書59章からの引用です。59：7-8「**彼らの足は悪に走り、罪のない者の血を流すのに速い。彼らの思いは不義の思い。破壊と破滅が彼らの大路にある。：8 彼らは平和の道を知らず、その道筋には公義がない。彼らは自分の通り道を曲げ、そこを歩む者はだれも、平和を知らない。**」。パウロは私たちはことばだけでなくその行ないも汚れ切った者だと言います。

(1) 足：「**彼らの足は血を流すのに速く、**」と、人に対する憎悪が殺人をもたらすと言います。人に対する憎しみを放っておくなら、それは大変な行為を生み出してしまふ、どうしてもあの人がいやだとか、どうしてもあの人を嫌いだとか、そのような思いを私たちはすぐに解決しておかなければそれは間違った行為を生み出して行きます。この世に存在する様々な争いを見たとき、その多くの原因はそのような間違った罪が原因だということを私たちは知っています。ヤコブが言った通りです。「**何が原因で、あなたがたの間に戦いや争いがあるのでしょうか。あなたがたの中からだの中で戦う欲望が原因ではありませんか。：2 あなたがたは、ほしがっても自分のものにならないと、人殺しをするのです。うらやんでも手に入れることができないと、争ったり、戦ったりするのです。あなたがたのものにならないのは、あなたがたが願わないからです。**」(ヤコブ4：1-2)。このように私たちは非常に利己的であり、自分のことを最優先するゆえに、自分の思い通りにならないとこのようなことをしでかしてしまうことがあるのです。

(2) 破壊と悲慘：「**彼らの道には破壊と悲慘がある。**」と言います。「**破壊**」とは砕くこと、破滅です。罪人が為すことは人を傷つけることです。自分の欲しいものを手に入れるためならそれによって人がどのように傷つこうと関係ないのです。「**悲慘**」、そこには惨めさしかありません。自分の思い通りに生きていながら、そこには本当の喜びを見出すことができないのです。自分の好きなように生きている自分を客観的に見る機会があると、私たちは「何と惨めな人間だろう、何と悲慘な人間だろう」と思います。「**悲慘**」ということばは苦難、労苦、不幸という意味をもったことばですが、パウロが言ったように、その人たちの生き方はそのように人を傷つけることが平気であるから、悲慘しかないのです。どこの国に行っても気付くことは、そこには様々な問題に苦しんでいる人々の顔があります。どんなに物が豊かでも幸せをもっていないという顔があります。どんなに好きなように生きていても、私は本当の満足を得

ていないという顔があります。皆さんの顔はどうでしょう？神にあって私は本当の満足、本当の喜びをいただいたという顔をして、その祝福をくださった神を人々に証していますか？イエスを知らない人々はこのような人だと言います。

**(3) 平和の道知らない：「知らない」、見分けること、理解することができないと言います。** どうすればこの本当の「平和」を得ることができるのか？すばらしい祝福を得ることができるのか？そのことを知らないと言うのです。もう一步突っ込めば、そのことに興味が無いのです。みな言います、私は幸せになりたい、喜びをもって生きて行きたい、本当の満足を得たいと。それならなぜ、それを与えてくれる真の創造主なる神のもとに出て来ないのか、私たちはそのことを問い掛けます。彼らは神以外のところにそれを見出そうとしているのです。それは何を意味するのか？本当にそれを求めているのです。なぜなら、それが私にとって最も大切ななら、すべてのものを売り払ってでもそれを手に入れようとしみます。たとえば、自分の家族が病気になった、この薬によってその病気が治ると言うなら、私たちはすべての財産を遣ってもそれを手に入れようとしみます。人々は言います、幸せになりたいと。みことばは主イエス・キリストによってそれを得ることができると私たちに言いますが、人々は「ノー、サンキュウ」と言うのです。矛盾があります。彼らが最高の祝福をもらいたいとするなら、それを与えてくださる唯一の方のところに出て来るはずですが、しかし、彼らはそこに出て来ようとしません。出て来たくないのです。あくまで自分の思うような方法でそれを手に入れようとするのです。ですから、いつまで経っても得ることがないのです。悲しいことです。でも、そのような生活を私たちも過ごして来たのです。主イエス・キリストの話聞いても心に受け入れようとしなかったのは私たちです。イエスを信じている人たちを見て私たちは「あの人たちは弱い人だ、何か問題があるのだ、悩みがあるのだ」とかつては見下していたのです。パウロは私たちに言います。彼らには平和がないし、彼らは平和の道知らない。救い主の誕生について預言がなされました。「**ひとりのみどりご**」が与えられることが預言されたとき、「**その名は「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君」と呼ばれる。**」、「prince of peace」です。平和の源、平和をもたらす唯一のお方です。あなたの心に平安を与えるお方、敵対していた神との間に平和をもたらしてくださる唯一のお方、それがこの世に来てくださった救い主イエス・キリストです。この方によってあなたは神との間に平和をもつことができるし、この方によってあなたは神しか持ち得ない平安を得ることができるのです。なぜ、この方のところに出て来ないのでしょうか？

### 3) 神に対する恐れがない 18節

その原因をパウロは18節でこのように言います。「**彼らの目の前には、神に対する恐れがない。**」と。ここに問題があるのです。これが問題の原因なのです。人々は神を恐れないと言います。そこに、これまで見てきた、罪を犯してそれでいいとする問題の原因があると言うのです。

#### (1) 恐れ：恐れる、怖がる、(afraid) という意味で

イエスを信じておられない皆さんは、この人生は生きている今が華だと言います。生きている間に楽しめばいい、死んだ先のことなど考えない、考えたくないと言います。そのあなたに対する神のメッセージがあります。それは、あなたの罪はすべて神の前に覚えられていて、あなたはすべての罪を神の前で正しくさばかれるということです。神のさばきは容赦がありません。厳しいものです。あなたのすべての罪がさらけ出されて、あなたが永遠の地獄にふさわしい者であることを明らかにして、あなたはぐうの音も出ないのです。そのときにこの永遠のさばきこそ自分にふさわしいものであることに気付くのです。そして、恐ろしいことに悲しいことに、その時点ではそこから逃れる道はないのです。私たちは明日のことが分かりません。今日、この後どうなるかも分からないのです。あなたは自分の永遠に対する備えができていますか？いつまで神を侮るのでしょうか？いつまで神の恵みを無視し続けるのでしょうか？神に立ち返ることです。今なら赦していただけます。あなたがしなければいけないことは、あなたのその間違った罪の生き方を止めて神の前にその罪を悔い改めて出て来ることです。この罪人の私を赦してくださいと…。イエスをまだ信じていない人の問題はここにあり、神を恐れないのです。神の警告のことばに対して耳を傾けようとしない、そのような警告のことばを聞いても恐れも感じないのです。

では、クリスチャンはどうでしょう？あなた自身も神に対する恐れを失っていませんか？神はあなたの心をすべて見ておられるということをあなたは知っているはずですが、あなたの考えもあなたの思いも、あなたのすべてを神は知っておられる、それでいながらなぜあなたは神のみことばに従わないで平気でいられるのでしょうか？罪の生活を送ることに慣れきってしまっていないですか？仕方がない、自分は弱い存在だからと、そのようにして罪を犯し続けて行くこと、神に逆らい続けて行くことをどこかで容認していませんか？私は赦されたのだから、天国に行けるのだから、そして、私は弱い者だからどんなに頑張っても罪から離れることはできないのだから、そのことをすべて分かっただけで神だから、好きに生きて行きましょう…。あなたは神に対する恐れがないのです。私たちが覚えるべき私たちの神は聖い

正しい方です。私たちが覚えなければいけないことは、私が今日犯したその罪のために、イエス・キリストは十字架で死んでくださった、あの苦しみはその罪のためであったということです。何をしても赦してくださる神さま、そのような神観をもち始めることによって、罪に対する感覚が鈍っていませんか？ 私たちの神がどれほど罪を憎んでおられるかを忘れていませんか？

出エジプト記20章に、人類にとって驚くべき出来事が起こった様子が記されています。人々が神から律法をいただいたのです。モーセはシナイ山を上ったり下ったりして神と会見し、神のメッセージを携えて、また、神の意見を聞いてそれを民のところにもって来ました。出エジプト20：18には「民はみな、雷と、いなずま、角笛の音と、煙る山を目撃した。民は見て、たじろぎ、遠く離れて立った。」、彼らはモーセにこのように言います。20：19。「どうか、私たちに話してください。私たちは聞き従います。しかし、神が私たちにお話しにならないように。私たちが死ぬといけませんから。」と、彼らは恐れをもったのです。シナイ山が主の栄光と力に満ち溢れているその様子を見たとき、彼らは非常な恐れを抱いたのです。この光景は彼らを震え上がらせました。そして、20：20「それでモーセは民に言った。「恐れてはいけません。神が来られたのはあなたがたを試みるためなのです。」、神がこの山に下って来られたのはあなたがたがこの神に対してどのように歩んで行くか、そのことを試みるため、テストするためだと言います。ですからその後、「また、あなたがたに神への恐れが生じて、あなたがたが罪を犯さないためです。」とあります。この接続詞の「また、」と訳されているヘブライ語の原語のことばの意味が残念ながらうまく出ていません。ここで使われているのは目的を表わすことばです。ですから、「それは～」とか「～をするために」という接続詞です。つまり、「あなたがたを試みるためなのです。それは、あなたがたに神への恐れが生じて…」、このような出来事が起こったその目的をモーセは民に教えるのです。このような出来事が起こったのはあなたがた自身をテストするためで、あなたがたはどのような反応で神に応答して行くのか、それを見るためだ、そして、これらの目的は「あなたがたに神への恐れが生じて、あなたがたが罪を犯さないため」だと言います。神への正しい恐れというのは生き方に影響して行くのです。神を正しく恐れている人は、それを自分の生き方をもって証明して行くのです。ですから、罪を犯しても平気であるとか、神に逆らっても平気である、みことばを無視しても平気であるというのは、神に対する恐れに問題があるのです。残念ながら、このイスラエルの民はこのようなすばらしい驚くべき光景を目撃していながら、彼らはこの神に対して罪を犯して行きます。そのことは32章から記されています。私たちと同じような姿をそこに見るのです。一時的に、私たちは神の前に砕かれて神に対する聖い正しい恐れをもちますが、その後の日々の生活にあって私たちはまた元に戻ってしまいます。それ程私たちは愚かで神を恐れない者です。

## (2) 恐れ：畏敬、尊敬と意味で

ヴァインという学者はこの「恐れ」ということばに関してこのような定義をしています。「霊的、道徳的に関係なく、その人の生活を支配する、制御する動機である。ただ単に、神の力や公正なさばきを恐れるというのではなく、神を不快にさせることへの健全な恐れである。」と。神は聖い正しい方であるから恐れる、怖がる、それだけでなく、神を不愉快にさせたくないという思い、それが「恐れ」なのです。私の語ること、私のすることが神の耳に届き目に届いている、それをご覧になっている神がそれを見て不愉快に思わないか、そのようなことを意識しながら生きる者たちが「神を恐れる」者たちなのです。そして、パウロが言うことは、悲しいことに、このような恐れをもつ人たちがいなくなっているということです。だから、何をしても神は赦してくださる方だからと言って、好きな生き方を継続してそれで信仰者として神の栄光を現わしているというのです。とんでもない！いつの間にか、私たちはサタンの偽りにだまされてしまって、もちろん、その背後には私たちは自分の好きなように生きていきたいという愚かな罪深い願いがあるからですが、そうして、神の前に罪に罪を重ねているのです。

あなたは心から神を恐れていますか？神がどのようなお方かを覚えて、あなた自身が非常な緊張をもってこの方の前を生きておられますか？また、この方を心から愛するゆえに、この方に対してこの方が不愉快を抱くことをしたくないという強い思いをもって生きようとしていますか？そのような生き方をするために絶対に必要なものは「神の恵み」です。神の助けがなければそのような生き方はできません。そして、感謝なことに、神はその助けを与えてくださったのです。「主よ、このように生きていきたいですから、どうぞ、私を助けてください」と、そのようにして私たちは生きるのです。

## 3. すべての罪人は確実にさばかれる 19-20節

19-20節「さて、私たちは、律法の言うことはみな、律法の下にある人々に対して言われていることを知っています。それは、すべての口がふさがれて、全世界が神のさばきに服するためです。：20 なぜなら、律法を行なうことによっては、だれひとり神の前に義と認められないからです。律法によっては、かえって罪の意識が生じるのです。」、「律法」、旧約聖書のことです。「律法の下にあるある人々」、これは世界中の人々です。

なぜなら、私たちがすでに学んで来たように、ユダヤ人たちは実際に神から書かれた律法をいただいた、でも、異邦人もその心の中に神の律法が刻まれていることを2章で見て来ました。それゆえに、彼はこのように言います。19節に言われていることを「…知っています。」ということばは、先ほど私たちが見てきたことばとは違うのですが(17節)、ここでは何かを見て私は知っているという強い確信があります。そこでパウロは「すべての人々、実際に字に書かれた律法をいただいたユダヤ人であろうと、心に律法をいただいた異邦人であろうと、すべての人間がこの神の前にさばかれる」ということを「**知っている**」と言うのです。今見て来たように、ユダヤ人も異邦人も例外なく私たちは例外なく神の前に罪を犯し続けています。性質においても、言動においてもそうでした。それを正直に見つめるなら、私たちはこのように言います。あなたは罪人だという神に対して「神さま、あなたの言われるとおりです。ここにはどうしようもない罪人が存在しています。ゆえに、私は確信をもって言います。私は確実に神の前にこの罪のさばきを受ける運命にあります」と。そして、その神の前に立つとき、だれ一人として弁解できなというのはその通りです。パウロはこのように言います。「**律法を行なうことによっては、だれひとり神の前に義と認められない**」と。どんなに頑張っても良い行ないをしよう、正しく聖く生きようと努力しても、あなたの行ないによって救いを得ることは決してないと。

パウロはこれまで私たちに、私たちがどれ程汚れた行ないをしてきたか、どんなに神に逆らって来たのかを教えました。同時に、私たちは行なわない罪を犯す者です。それは「神がしなさいといわれることをしない罪」です。神が行ないなさいと言われる正しいことを行なわない罪を犯しているのです。また、人々の前で犯す罪もありますが、「隠れたところで犯す罪」もあります。ローマ2:16に「**私の福音によれば、神のさばきは、神がキリスト・イエスによって人々の隠れたことをさばかれる日に、行なわれるのです。**」とあります。神の審判は私たちの隠れたところにまで及ぶのです。だれも見えていないところでの罪にまで及ぶのです。パウロは言います。だから、あなたはこのさばきから逃れることはできないと。まだ、イエスを信じておられない皆さん、大変なメッセージです。今、あなたはこのさばきにまっすぐに進んでいるのです。私たちが心からあなたにお勧めすることは、その罪を悔い改めて主イエス・キリストのところに救いを求めて出て来ることです。主はあなたを救ってくださる、イエスの十字架と復活はそのことの証です。クリスチャンである皆さん、神に対する恐れを失っていませんか？神に対する深い畏敬の念を失っていませんか？神を喜ばせたいという思いがあなたの心を支配していますか？私たちが覚えなければいけないことは、今さばきに向かっている人たちと、私たちは罪という点において何ら変わりはありません。よく自分を見たとき、この世界中のすべての人よりも罪深い者がいます。自分です。そのような者を神は救ってくださった、その罪を赦して生まれ変わらせてくださった、それはこの地上にあって、この神のすばらしい救いを明らかにするためです。救ってくださった神を世の人々に明らかにするためです。神に従いながら、神の栄光を現わすことによってです。そのために必要なことは、神に対する正しい恐れがあなたの心を支配し続けて行くことです。主を見上げることです。どんなお方なのか、どのような恵みをもって私を愛してくださったのか、そして、知ることです。どんなに自分がその恵みにふさわしくない者なのかを。